

談話室



北原産業
代表取締役
北原 忠氏

まず、紙面を借りまして去る5月23日に死去された「エフピコ」の創業者であり、代表取締役会長として包装産業の発展に多大に貢献された小松安弘氏に謹んで哀悼の辞を述べた。残された我々は

たいと思います。同じ食品容器に関連する業界人の一人として大切な方を亡くしたのと思います。地元・岡山県に生まれ、25歳で「福山パール紙工(現エフピコ)」を創業し、一代

小松会長の遺志を継いで、業界を盛りたてていかなければと強く思うところです。さて、当社はプラスチックと紙の両方を生きた。業界で初めてプラスチック容器と紙容器の提案に努めてい

小松会長の遺志を継いで、業界を盛りたてていかなければと強く思うところです。さて、当社はプラスチックと紙の両方を生きた。業界で初めてプラスチック容器と紙容器の提案に努めてい

技術力と開発力を進化

超極薄嵌合カップ容器が好評

器メーカーとして1967年(昭和42年)4月に創業し、今が51年目となります。独自の一貫体制、一歩先ゆく姿勢を北原産

の両製品の製造を行っている。最近、紙ボックスシリーズの中でも二段刷、販売までをトータルで行う一貫体制を強化し、今後「チャレン」紙製でありながら漆器の風合いを備えた特徴

最近、紙ボックスシリーズの中でも二段刷、販売までをトータルで行う一貫体制を強化し、今後「チャレン」紙製でありながら漆器の風合いを備えた特徴

「スリム」の提案を進めてまいります。開発に5年を費やした。1998年に発売した。18年が経過した。超ミラクル極薄嵌合で、さらに開めやすく、開けやすく、か

化成品では「タイトカップ(スリム)」シリーズのラインアップを強化し、着実にマーケット深耕を図っています。スリムな嵌合と美観性を実現した技術が評価され、バリエーションも増加。引き続き「タイトカップ(スリム)」、「タイトケース